

子宮内膜上皮内腫瘍における併存子宮体癌の検出—子宮鏡を併用した内膜生検の有用性を検討した後方視的研究—

Hysteroscopy-guided endometrial sampling diagnostic performance in endometrial intraepithelial neoplasia patients.
Khalife T et al

J Minim Invasive Gynecol 32 : 725-730, 2025

背景 子宮内膜上皮内腫瘍(EIN)は子宮体癌の前癌病変であり、診断時にすでに子宮体癌を併存している症例が一定数存在する。従来の子宮内膜全面搔爬では病変の局在や悪性病変を十分に評価できない可能性があり、子宮鏡を併用した生検により診断精度の向上が期待されている。

目的 EIN患者において、従来の子宮内膜全面搔爬と子宮鏡を併用した内膜生検による診断性能を比較し、併存子宮体癌の術前診断精度を評価することを目的とした。

方法 米国ミネソタ州およびウィスコンシン州のMayo Clinic 関連医療システムにおいて、2018年1月～2023年1月までに内膜生検でEINと診断され、3カ月以内に子宮全摘術を受けた151例を対象とした後方視的コホート研究である。子宮鏡を併用して生検した群と全面搔爬群に分け、子宮全摘標本の最終病理診断を基準として、併存子宮体癌の術前検出能を比較した。

結果 対象151例のうち、子宮鏡併用生検群は76例、全面搔爬群は75例であり、子宮鏡併用生検は、子宮全摘後に病理組織学的に診断された併存子宮体癌のリスク低下と関連していた〔OR 0.44, 95%信頼区間(95%CI) 0.20–0.95, $p=0.033$ 〕。

また、最終病理で子宮体癌と診断されるリスクはBMI 30以上(OR 4.17, 95%CI 1.51–11.51, $p=0.004$)および60歳超(OR 5.56, 95%CI 1.22–35.21, $p<0.001$)で高かった。

結論 EIN患者において、子宮鏡併用生検は盲目的内膜生検と比較して、併存子宮体癌の術前検出能を向上させる可能性が示された。

特に高齢者や肥満例では併存子宮体癌のリスクが高く、直視下に病変を評価して生検を行う意義が示唆された。

(岐阜大学医学部産科婦人科学教室 桑山太郎 抄)

FMF 妊娠初期リスクに基づく妊娠高血圧腎症発症リスクに対するアスピリンの効果

The effect of aspirin on the risk of preeclampsia based on the Fetal Medicine Foundation first-trimester risk.
Bujold E et al

Am J Obstet Gynecol 234 : 770-778, 2026

背景 妊娠高血圧腎症(PE)は母体および胎児の罹患率・死亡率に大きく関与する重要な周産期合併症である。Fetal medicine foundation(FMF)アルゴリズムは、母体因子、平均動脈圧、子宮動脈血流および胎盤由来バイオマーカーを用いて妊娠初期にPEリスクを予測する手法である。ASPRE試験では、高リスク妊婦へのアスピリン150 mg投与により早発型PE発症が有意に減少したが、予測リスクと予防効果の関連は十分検討されていなかった。

目的 FMFアルゴリズムで算出された妊娠初期PEリスク別に、アスピリンによるPE予防効果を評価すること。

方法 ASPRE試験の事後解析を実施した。妊娠11～13週にFMFアルゴリズムで早発型PE高リスクと判定された単胎妊婦を対象とし、アスピリン150 mg/日投与群とプラセボ群を比較した。プラセボ群ではFMFリスクとPE発症との関連を検討し、さらに服薬遵守率の高い症例を対象として、リスク層別ごとのアスピリン予防

効果を解析した。

結果 プラセボ群822例の解析では、FMFリスク5%以上の群は5%未満の群と比較してPE発症率(21.7% vs 8.1%)および早発型PE発症率(8.4% vs 2.9%)が高かった。服薬遵守率の高い1,143例の解析では、アスピリン投与により全PE発症率は36%低下し(RR 0.64, 95%CI 0.44–0.93)、早発型PEは76%低下した(RR 0.24, 95%CI 0.09–0.63)。また、FMFリスクが高い群ほど絶対リスク減少効果が大きく、予防介入による臨床的利益が大きかった。

結論 FMFアルゴリズムで評価した妊娠初期リスクはPE発症と強く関連し、アスピリンによる予防効果は高リスク群でより大きい可能性が示された。本研究は、FMFスクリーニングに基づく高リスク妊婦への選択的アスピリン投与を支持する結果であり、個別化されたPE予防戦略の有用性を示唆する。

(岐阜大学医学部産科婦人科学教室 上村小雪 抄)